

## 『ドキュメンテーション』で示す子どもの学び

おおむたこども園は、3歳以上児(ぶどう、もも、ばなな)の子どもを対象とした、保護者との連絡帳のやり取りはしていません。設定保育(一斉に課題を課す保育)をしていたころは、昼寝の時間に「今日は、運動会の絵を描きました」などと一辺倒な書き方が精一杯。とてもひとりひとりに焦点を合わせる書き方には、程遠い環境でした。事務や雑務に疲弊し、肝心な子ども達に寄り添うことは皆無だったように思います。

子ども主体の保育に転換してから、日々の教育保育の理解や保育記録、連絡帳の有り方について模索する日々が続きました。しかし、研修や先駆的な園などに学び、写真と文章を記録する『ドキュメンテーション』でお示しすることに至り、2年半が過ぎました。

担任は、毎日子ども達の「学び」に目や耳を傾け、遊びや活動を見守っています。私も、写真と文章で書かれた、各クラスの『ドキュメンテーション』を楽しんでいます。

当園のドキュメンテーションは単なる遊びや活動の紹介ではありません。子どものひとりひとりの主体的なあそびの中の「成功や失敗」、「挑戦や断念」、「人とのかわり」、「試行錯誤」、「個々の表現」などを深く見て聴いて、学んだことを写真に撮り、文章に起こしています。子どもは、失敗したことや諦めたことも必ず、何かを学んでいます。何回も言いますが、0歳児から『ただ、遊んでいる子どもは1人もいません!』

子ども達は、『子どもが主体の教育保育』の中で、これまでの保育士主導の一斉活動とは真逆の、多様な個性的な育ちを見せています。そしてその育ちや学びを、見てとれるようになった担任の保育観の変容と表現力は、おおむたこども園の自慢です。

当園のドキュメンテーションは、連絡帳では伝えきれない学びを目に見える形で掲示し、子ども達の育ちを保護者と共有し教育保育の理解を図ることが目的です。また、公的な保育記録(保育日誌)としての役割も担っています。ホームページにも毎日アップしています。ファイルリンクもしていますので貸し出しも可能です。我が子だけでなく、他クラスのドキュメンテーションも目を通され、子ども達の自ら育つ力を是非ごらんください。

\*『ドキュメンテーション』とは…子ども達の活動や様子を写真や文章、コメントなどを皆が見える形で提示するもの。イタリア発祥の幼児教育法「レッジョ・エミリア・アプローチ」で行われ、近年我が国の保育界も注目している。

## 見通しをもつということ

先日いちご2の女の子が、「今日は、除去食ある?」と担任に聞いたそうです。この難しい言葉を流暢に操る2歳児にびっくりするやら可愛いやらで、笑いそうになったとか…。

除去食とは、食物アレルギー疾患のある子どもに、小麦粉や乳製品、卵などのアレルゲンである食品を除いて提供するものです。当園は、該当する子どものアレルギーの原因である食品が使われた時は、その子どもは一番にひとりで食事をします。もちろん、担任はしっかりついていきます。ひとりでテーブルを独占することで誤食の事故を防ぐためです。また、テーブルの食べかすや汁からもアレルギー症状招く場合もあり、このような対応をしています。

だから、この子は、「今日は、除去食ある?」と聞いたのです。除去食が無ければ、献立はみんな同じなのでテーブルと一緒につきます。除去があれば、その子が食べ終わってからの食事になります。「早く食べたい…」と意を通しているのではなく、この子なりの見通しを持って出た言葉です。担任のこれまでの声かけから除去がある日、無い日があることを悟ったのでしょう。除去の日は、自分の番が来るまで、遊んで待つ。なければ一緒に食べられる…。小さいながらに見通しをもって考えたり、行動できます。当園は、全クラス一斉に食事をしません。いちご組は、1人あるいは2~3人まで。テーブルに付いていない子どもは、自分が選んだ玩具で遊びながら待ちます。子ども達はチラチラと担任の動きや友達の食事の様子を見ながらあそぶ中で、「見通しをもつ…」ことが培われていきます。これも非認知能力です。